

おとさだ
乙 貞

第253号 通巻44第2号
令和6(2024)年6月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター
〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077(585)4397
Mail maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

田植えを先月終えた当館周辺の水田では、その直後には弱弱しかった早苗が、今や爽風にゆれながら逞しく育っています。

本号の記事としても掲載していますが、春季講演会も「米と人の関係史－弥生からつづく稲作文化を探る－」と稲作をテーマに5月に開催しました。

「田植え前に水田に水を張るや、その時を待っていたミジンコが琵琶湖とは比べようのない高い密度で孵化します。そのことをきっかけに昆虫、魚が集まり、さらに鳥や動物が訪れるようになります。水田を舞台に食物連鎖の世界が創造されます。また、稲だけを栽培したい水田には、稲以外の雑穀や雑草もしのぎを削ります。実に情熱的ともいえる動植物の営みが繰り広げられます。」と水田独自の世界観から始まりました。そのような思わぬ動植物をも米とともに受容、醸成したのが日本列島の稲作文化で、今も営々と継承されているという論旨明快な講演でした。

さて、先月中～下旬には、「守山ほたるパーク&ウォーク」が開催され、遠来からも多くの人々が訪れ好評を博しました。かつて、初夏の夜を乱舞した守山のゲンジボタルは国の天然記念物として名を馳せていましたが、農業の近代化が進む中で絶滅し、近年の取り組みの甲斐あって復活したことによるイベントです。ゲンジボタルもまた、稲作文化の申し子ではないでしょうか。

それでは、発掘調査の動静と4月以降に実施したイベントの開催結果をお知らせします。

発掘調査だより

赤目遺跡第19次調査

勝部2丁目で計画されている宅地造成に伴い試掘調査を実施したところ、赤目遺跡の範囲が拡大する結果となり、第19次調査として発掘調査を実施しました。

調査期間は、4月15日～5月8日までで、今回は道路予定地部分、約100㎡を対象に調査を行いました。その結果を報告します。



調査前風景



調査地全景

今回、検出した遺構は、竪穴建物7棟(SI-1～7)と掘立柱建物1棟(SB-1)、土坑2基(SK-1、2)、ピットが見つかっています。

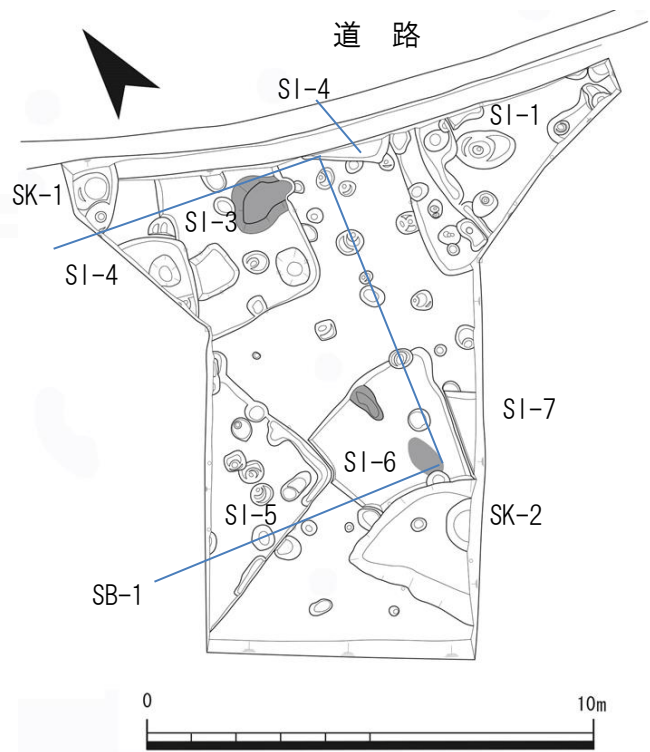
7棟の竪穴建物は隅丸方形プランであることがわかる程度で全容を把握できる建物はありません。SI-1とSI-2、SI-3とSI-4、SI-5～7が重複関係にあり、それぞれが物理的に近接していることから、建物が契機的に建てられ、長らく集落地として土地利

用されていたことがわかります。

また、SI-1の床面西辺には段差があり、いわゆるベッド状遺構になるのか、あるいは2棟の建物が重複している蓋然性が高いものと考えられます。

SI-3は、東辺壁面の一部が赤く焼土化して床面まで続いていることから、カマドを付設していたと思われます。同様に、SI-6も北側壁面と床面が焼けていることからカマドが付設されていたと考えられます。さらにこの竪穴建物の中央やや南側は、床面が焼けていて、カマドに加え炉を併設していたと考えられます。

掘立柱建物SB-1は5間×3間以上の規模を測り、建物方位は北から約17°西に偏っています。柱穴は直径40~50cmで、15~30cmの深さを測ります。竪穴建物に後出する時期であることがわかります。



検出遺構平面図



検出遺構写真 左上：SI-6、7 左下：SI-3、4 右：SI-5

検出遺構からは土師器や須恵器が出土していて、古墳時代後期の時期が想定できます。

赤目遺跡ではこれまでの調査でも、古墳時代後期の竪穴建物が数多く見つかっています。ちょうどカマド導入の時期であることや、3~5棟ほどが切り合い関係を呈するなどの検出状況は、北東側に近接する吉身北、吉身南遺跡の古墳時代後期集落と共通性が見られ、両遺跡が同一集落を形成していたのではないかと考えられます。（畑本）

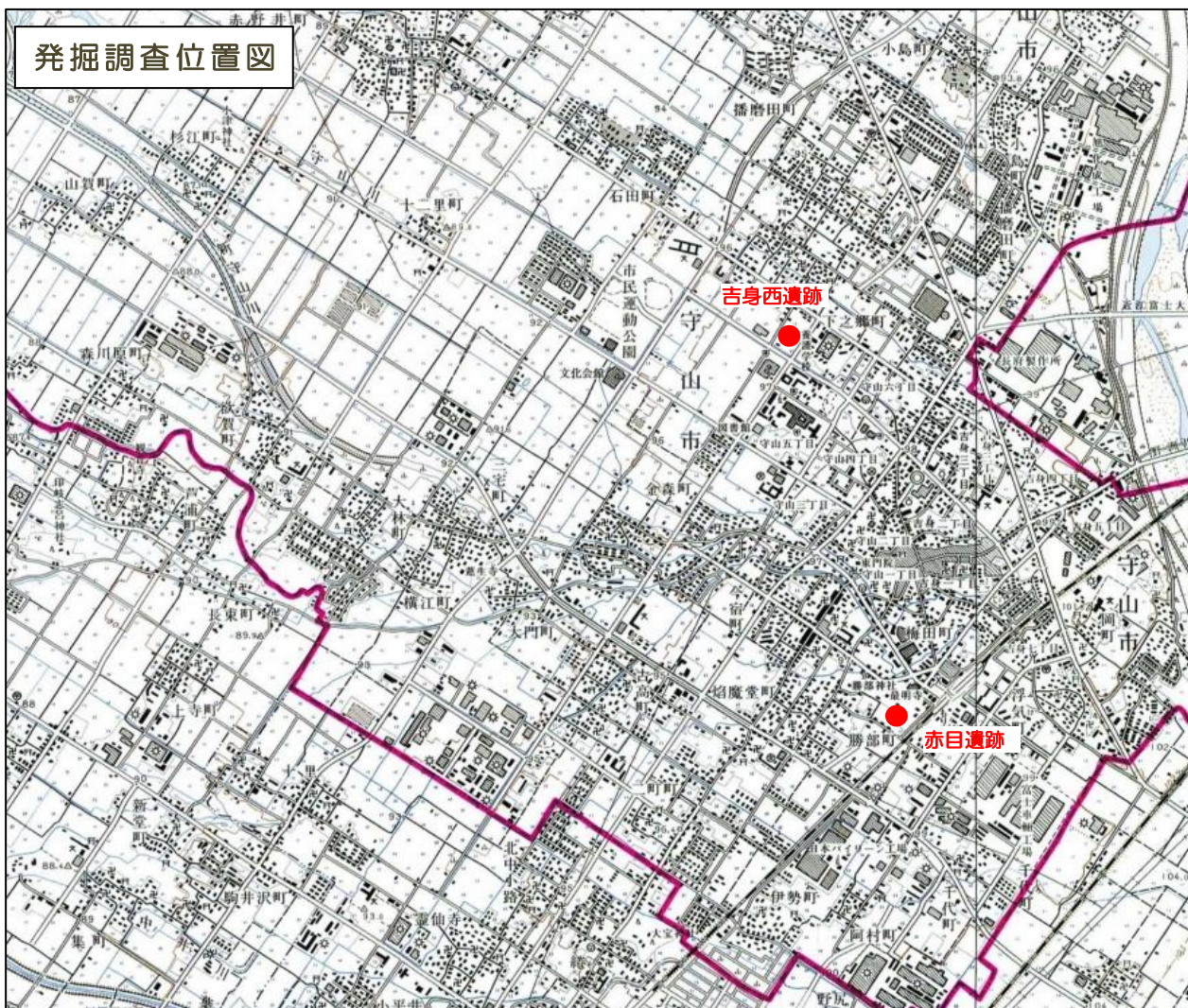
吉身西遺跡第136次調査

今回の調査は、共同住宅建築に先立って、4月25日より実施しているものです。調査場所は下之郷3丁目字鎌田に所在する水田地約1,500㎡で、ちょうど吉身西遺跡と下之郷遺跡の分布範囲が交錯する場所でもあります。

現在のところ、竪穴建物2棟と溝を検出しています。竪穴建物は床面から4支柱穴と貯蔵穴とされる土坑、周壁溝を検出しています。出土土器から古墳時代前期の時期が考えられます。

溝は、竪穴建物に切られる古墳時代以前と竪穴建物を切る8世紀代の2時期の溝を検出しています。現地調査はまもなく終了する予定です。詳細は次号乙頁でお伝えします。（沖田）

発掘調査位置図



春季講演会を開催しました！

令和6年度春季講演会を5月18日（土）に開催しました。今回の講師は、琵琶湖博物館主任学芸員の妹尾裕介さんです。昨年、妹尾さんが企画・担当された琵琶湖博物館企画展「おこめ展」の展示内容から、「米と人の関係史—弥生からつづく稲作文化を探る—」という演題で講演していただきました。

イネの品種や稲作の起源の話から、滋賀県は河川が形成



講演会開催風景（上・左下写真）



した後背湿地で、およそ2千3百年前に米づくりが始まったことなど、弥生時代の稲作文化を余すところなくお話していただきました。

さらに、稲作文化を共有する東南アジアの民族例とも照らし合わせて、今後の稲作農耕の課題にも言及され、64名の受講者は大変興味深く受講されていました。妹尾さん、ありがとうございました。

トピックス topics トピックス topics トピックス topics トピックス topics

埋蔵文化財センター友の会

令和6年度総会・第1回見学会開催！



岐阜県関ヶ原古戦場記念館

5月24日（金）、友の会総会と見学会が開催されました。

当日は、岐阜県の関ヶ原古戦場記念館を見学した後、滋賀県内にUターン、柏原宿生涯学習センターの一室をお借りして総会を開催しました。閉会後にはセンター道向いの柏原宿歴史館で柏



原宿の歴史を学び、この日の日程を終えました。参加者は34名、少し汗ばむ時間帯もありましたが、晴天下での見学会をそれぞれ満喫されていました。

今回の総会・見学会では、柏原宿生涯学習センターの皆様や柏原宿歴史館の谷口館長他スタッフの皆様にお世話になりました。

ありがとうございました。紙面を借りましてお礼申し上げます。



古戦場記念館見学・昼食風景



守山市立埋蔵文化財センター友の会は、遺跡や史跡、歴史に興味のある皆さんが現地見学会などを年4～5回行っています。

興味のある方のお問合せ、入会をお待ちしています。

左：総会風景（柏原宿生涯学習センター） 右：柏原宿歴史館見学風景

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Facebook からもご覧いただけます！



◀ 歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】 只今放映中の大河ドラマ「光る君へ」のヒロイン、紫式部は仮名はもとより、漢詩文などの文学に秀でた人物像でストーリーが進行しています。遣唐使が廃されて国風文化が興り、そこから生まれた仮名はず、宮仕えの女房に受け入れられ、源氏物語や枕草子などの仮名文学が生み出されます。

一方、朝廷の官吏も仕事と教養のために漫然と漢詩文を嗜んでいたわけでもありません。この時代、仮名漢字を織り交ぜた日本語文が男女間のコミュニケーション・ツールになりつつありました。いかに女性の心を掴むか、細やかな文章表現の錬成に切磋琢磨の日々を送っていた向きもあります。

時代は降り、1960年代にビートルズが来日公演を果たしたのは、圧倒的な女性ファンの支持によるものと喧伝されました。当初はその音楽性やファッション性に眉をひそめた男性たちにも次第にその人気は波及しますが、ビートルズが男女を取り持つことのできる媒介だった側面が指摘されています。そして、男性はこぞって美容院に通い、その後のGSブームという現象を引き起こします。

起結のない雑駁なまとめ方ですが、文化は、様々な理由で創出されるものだと感じました。しかし、いずれもジェンダー規範を乗り越えたことは間違いありません。 (馬耳東風)